

#### 【質疑応答④】

○司会 お約束どおり 15 分を残して終わっていただきました。逆にフロアの皆さんへの質問というかたちになっておりますので、もちろん質問でも結構ですが、ご意見や今のお話を受けたものがあれば。どうぞ。

○阿部武司（国士舘大学） 昨年、大阪大学を辞めまして、今国士舘大学におります阿部（武司）と申します。私は国立大学を退いた人間ですから、発言する資格があると思うんですが。

私は経済史や経営史を専門にしております、色々と資料を集めましたが、そのコピー類はどこも引き取ってくれません。本ですら簡単には引き取ってくれないんです。ただ本は、大学にないもの、重複していないものを自分で選んで、目録を作って「お願いします」と言えば引き取ってくれました。これが現状です。

もっとも大学の側にも言い分があるようで、特に図書館、あるいはアーカイブズもそうですが、スペースがないんですね。書籍や資料はどんどん増えてくるでしょう。だから、それらを全部受け入れることも確かに難しいだろうと思います。それではどうしたらいいのか、私にはわかりませんが、まずは現状をお話ししておきます。

○東山京子 現状をありがとうございます。よろしくお願ひします。

○中見立夫（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授） 少し長くなりますが。

まず、檜山さんとか中京大学は偉いですね。持続は力なので、これはあきらめては駄目なんですよ。だから、どんどん頑張ってください。

少し時間をいただいて、折角の機会ですので広島大学が所蔵される特異な資料および台湾に関する資料について御紹介したいです。実は私は広島大学に来るのは 2 回目ですが、わたくしの勤務先（アジア・アフリカ言語文化研究所）はアジアの言語研究をされる方が多いのですが、広島大学の存在は中東の古代言語の研究では非常に有名です。戦前の広島文理大学には英オックスフォード大学留学した中原与茂九郎というアッシリア学の門家がおられ、原爆に被災されましたが戦後は京大教授になられます。

お嬢さんは広島に在住中に原爆で亡くなられますがお父さんがお嬢さんを記念し残した文庫でも有名です。戦前の日本で中東の古代研究などは全くなされておられず、中原先生の存在は貴重でありました。戦後においても古代中東語の研究の伝統は広島大学では継承され、吉川守という言語学の教授がシュメール語の研究家として著名でした。おそらくいまの広島大学の方もこういう学統が存在したことも御存知ないのでないかとおもいますか。吉川先生もヨーロッパに留学され、留学時代の友人を中心にシュメール語の国際研究学術誌が広島大学から *Acta Sumerologica* として刊行されていた。これは驚くべきことで、日本のアジア研究でもそのような例を他には存じません。また広島大学は本当にすごい国

際学界への貢献をなさっていたと尊敬しています。シュメール語の研究などは、国際的にみても同じ専攻の学者は乏しいでしょうが、日本の広島大学がその研究の中心として、今流行のことばでは学問の国際発信の中心となっていたのです。しかもある段階でシュメール語のタブレットも広島大学は購入されています。前回来たとき、あれはどうなっているかと聞いたら、誰一人として知らないのには驚かされました。今日、大学の入り口に入ったら陳列してありました。日本では、これはきわめて貴重なコレクションです。すくなくともある時期まで広島大学には古代中東語の研究で世界に誇るべき学統が存在したことは大学としても誇るべきことでしょう。

その後、東京にある（公益財団法人）中近東文化センターは出光興産がバックアップしてやっていたんです。

そして、もう一つ、私も昔、東アジアの文書資料の研究会をやっていて、その時に檜山先生に台湾文書のお話をして頂いて、もう一人、民間の人ですが、三田裕次さんという丸紅の社員。ひょんなことから知り合いになって、しかも大学のゼミ（細谷千博ゼミ）が同じなんですよね。優秀な人間で、そのままいってたら丸紅の重役になれた人材で、課長ぐらいまではいって、高等学校の時もAFS（公益財団法人AFS日本協会）でアメリカに留学していたような人。

この人は、大学時代に台湾に旅行をして関心を持って、台湾の文書か何かをどんどん買っていたんですよ。結論から言いますと、その文書資料や貴重な写真や映画はAA研（東京大学アジア・アフリカ言語文化研究所）でダビングして持っています。それは目録がありますからね。

ところが、それをやったのは、その当時、私と、同僚でダニエルズ（Christian Daniels）というオーストラリア人。もう彼は日本を離れて、去年、香港に行ってしまったんですけれどね。だけど、マイクロ化したもの、それから辜顕栄（こけんえい）の葬式の映像まであった。それは僕の所にもダビングがありますよ。フィルムもある。

そうしたら、おとし三田さんが死んだんですよ。あいさつ状が来たから。晩年は何か不調で郷里の広島県広島市に戻ってきた。そうしたら、東京の家は国立でしたが、そこにあった本も処分し始めた。それで結局、広島大学にあげたようです。ご存じないですか。今、広島大学なんですよ。だから、広島大学にもそういうコレクションがある。

ただ、問題なのは、台湾総督府がつぶれたときに日本に引き渡したものの台帳は、台湾の古本屋で三田さんが見つけたんですが、それも新聞で紹介されて、AA研がその文書類の写真マイクロ化してやったんですね。あれはどうされたのか。広島大学に来ているのはどうか。

広島大学は、広島に関係する教育のことでなくても、台湾史に関しても、意外なことにさらにシュメール語の資料もありますから、そういう **resources** と英語で言うけれども、いろいろなかたちであると思いますよ。

○小池聖一 今、シュメールの関係の文書類は、基本的には広島大学総合博物館が管理しています。基本的に、学術資料のなかでも物資料については博物館が基本的に管理しています。

それから、図書館の中に三井物産調査部の資料などがあります。この間、僕が見たかぎりでは、台湾関係の資料はなかったような気がします。

○中見 それから最後に、私のアジア・アフリカ言語文化研究所でも、近くに東洋文庫があって、私は東洋文庫の研究者でもあるから、そういう本など集めるといっても重複して集めてはしようがないと思って現物を買おうと。だから、ダニエルスもかなり買って、台湾関係のものがあるけれども、私の場合は中国・朝鮮の文書資料をかなり買ったんですよ。

とりわけ、三浦周行という朝鮮にいた京大の教授で法制史学者だけど、その人が朝鮮に行って買った文書があって、なかには日省録の原稿があるんですよ。それで、ちらっと韓国に行って言ったら、国史編纂委員会が来て、口頭で「これは返してください」と言う。「返せて、私の眼力がこういうのを探し出した。返せとは何事か」と一喝しましてね。

そうしたら、そちらもいずれ国史編纂委員会から、その前に韓国の国会図書館の予算を取ってマイクロ化したいということで、それだけ数百点。それとは別に中国側の文書がある。

ただ、このようなものを中京大学の社会科学研究所、これはなかなか大変でしょうけれどもね。アジア・アフリカ言語文化研究所も、昔は全国共同利用研究所で、日本最大のアジアの研究機関で、山口昌男を擁し、橋本萬太郎も擁しというものでしたが、来年度で中見立夫も退職です。もう、これもそのうち外国学部に吸収されて、どうなるか分からないと。

だけど、ちょっとその前に、私が収集したり、あるいはダニエルスがやったものとか、あとオスマントルコの演劇のポスターとかいろいろあるんですよ。

だから、おっしゃった問題は、これは何も中京大学だけではなくて、全て共通して、どうも日本の大学というのはそういう意味での理解ができない。機構的には、やはり図書館と文書館と、そういうものがなかなかうまくいかない。

今日は少しアメリカのミシガン大学の話があったけれど、文書館というのは海外では、大学史や学校史と関連します。卒業生の文書に注目します。僕はプリンストンの高等研究所にいた時に、あそこはプリンストンの大学と一緒になんですよ。ジョージ・ケナン (George Frost Kennan) の文書なんていうのは、彼はプリンストンの卒業生。それからウッドロウ・ウィルソン (Thomas Woodrow Wilson) もそうなんですよ。そうすると特別に保管されていて、そこに調書も入れてあったりする。

これは大学というよりも、もう少し日本人のそういう施設に関する意識を考えなくては駄目なのだろうなというふうに思いますね。博物館とそれはね。

○司会 ありがとうございます。後半につながるいい話をさせていただきました。会場の皆さまのために、所属とお名前をおっしゃっていただけると。

○中見 の中見と申します。専門は東アジアの国際関係史です。

○小池 すみません、三田文庫に関しては図書館にあるそうです。

○中見 ただし、それは文書ですか。

○菊池達也（広島大学文書館事務補佐員） いや、普通の本です。

○中見 だから、その文書群は写真には撮ったんだけど、それはどうなったのかな。

○菊池 そうです。基本的に開架とか閉架とかに分散して、たぶん配置していると思うんです。ただ、貴重な資料に関して、もしあったとすれば、それはどこに入っているかはちよっと何とも。

○中見 そうですか。今日、私は忙しいもので、すぐに帰らなくてはならないんですが、それは後で調べようと思います。

フランスの詩にね、「天上の星の美しさに見とれて、足元にある美しい花を泥靴で踏みつける」ということばがあるんですよ。そういうことをどこでもやっていることが多い。広島大学はそういうものはないと。

○司会 ありがとうございます。まだ若干、時間がありますので、どうぞ。

○中生勝美 桜美林の中生です。南投の文書館に私も昔1回行ったことがあります。あそこで台湾総督府の理蕃課の資料を見ていた人から間接的に話を聞いて、文書以外に、「物」もあると聞きました。毛皮とか、土器のような物も、文書と同じように保管しているときいていますが、その状況はどうでしょうか。

○東山 ありますね。台湾文献館には、3つの建物がありまして、文献のほかに台湾の歴史、台湾の文化、台湾の民族などに関するものを展示している建物の地下に倉庫があり、見たことがあります。

○中生 そういうのも目録化して申請すれば、見られるようになっているんですか。

○東山 そちらの方は目録を作っていないかもしれないです。正確にはわかりません。

○中生 分かりました。どうもありがとうございます。

○東山 台湾文献館には、いろいろなものがあります。

○司会 ありがとうございます。

それでは、時間になりましたので、東山さんのご報告を終わらせていただきたいと思います。

(休憩)